

旅立ちの日に ～旅にまつわる漢字～

旅

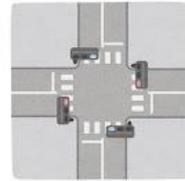
リョ
たび



𠂔と从とを組み合わせた形。𠂔は吹き流しをつけた旗竿の形。从は左向きの人が前後に並ぶ形。旅は一族がそろって一族の旗をかかげて遠くへ出向くことをいう。「たび、たびする」の意味に使う。

十字路の形。大きな道が交差している形で、人の行く所なので、「いく、ゆく」の意味となる。のちに、行は広く行う意味となり、「おこなう、なす」の意味に使われる。

行



コウ・ギョウ・アン
いく・ゆく・
おこなう

会

カイ・エ
あう



もとの字は會で、ふたのある鍋の形。上の部分はふたの形、まん中の部分は食べ物を煮炊きする鍋の形、下の部分はそれをのせる台の形。鍋にふたをして、煮炊きしている様子。いろいろな食べ物を集めてごった煮にしているので、「あつめる、あつまる、あう」の意味となる。

髙と刀(リ)とを組み合わせた形。髙は人の胸から上の骨の形。その骨の関節のところを刀で切り離すことを別といい、「わかる、わかれる」の意味となる。

別

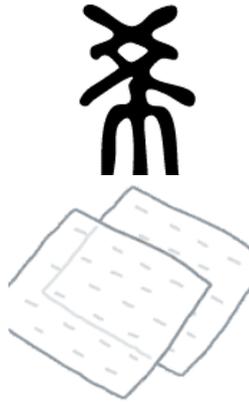


別

ベツ
わかれる

希

キ



すかし織りの布の形。上の爻がその織り方、下の巾が麻の布を表す。布の織り目があらいことから、もとは数が少なくてめずらしい、「まれ」という意味だったが、のちに「ねがう」の意味に使われるようになった。

火と人（儿）とを組み合わせた形。儿は人を横から見た形で、ひざまずいている人である。頭に大きな火を書き、火を強調している。古代、火は神聖なものであり、光はそのような火をあつかう聖職者をいう。のち「ひかる、ひかり、かがやく、ほまれ」の意味に使われる。



光

コウ
ひかる・ひかり

友

ユウ
とも



又と又とを組み合わせた形。又は右手の形。手を取り合っ
て助け合うの意味となり、「とも、ともだち、なかま」の
意味に使われる。

鳥が羽を張って飛ぶ形で、飛ぶ時の姿勢をいう。ゆっくり
飛ぶことは翔という。飛行、飛来のように「とぶ」の意味
に使う。



飛

ヒ
とぶ・とばす